

紫立ちたる癒やしの砂丘

石狩浜には、春から夏に向かうこの季節、紫の小花たちは砂丘の畝にへばりつくように果てしなく続き広がって、少し暖かみを増した6月の風に心地よさそうに揺れている。毎年、6月中旬、灯台付近の木道の散策を楽しみにしている。昨年、石狩浜海浜植物保護センターで開催された「はまなすフェスティバル」の際、イソスミレの実生苗を頂いてきた。公宅の玄関脇の花壇に植えてみたところ、見事に小紫の花々が開花した。実は、40数年前、石狩浜海浜植物調査を行った時に、それまで岩内を北限としていたイソスミレ群落の発見チームに加わっていただけに、この小花への思い入れもひとしおのものがある。▼同時期に咲くハマエンドウの紫も見事だ。紫の織りなす「パープル」な世界は、寒色系特有の安心をもたらししてくれるだけに、現代人にとってもこの景色に身をゆだねることは大切なことといえよう。昔、殿様は病気になるまで紫の絹を頭に巻いた。病を治す紫の効能を古来より受け継いだものである。植物の紫は貴重ゆえに薬効があるとされている。▼砂丘に立つ。雲雀のさえずりはどこまでも高く、木道は曲がりながら河口へと消えて行く、間もなく季節を迎えるハマナスはピロロドの光沢を瞬時に放つための整えに余念がない。石狩浜は230万人大都市圏に残された奇跡の遺産といえよう。(市長)

広告